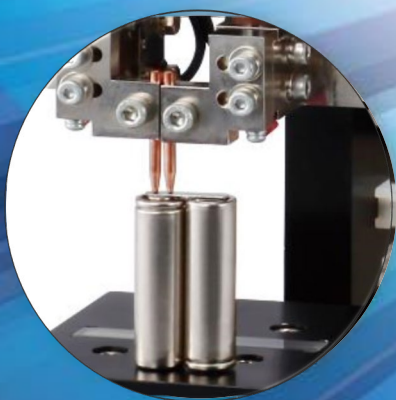




日本アビオニクス株式会社

第72期定時株主総会 (開会)

2022年6月22日



議決権保有株主様	2,938名
----------	--------

議決権数	28,170個
------	---------

基準日	2022年3月31日
-----	------------

お手元の招集ご通知
「34～35頁」を
ご覧ください

1. 第72期（2021年4月1日～2022年3月31日）
事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに
会計監査人および監査役会の連結計算書類
監査結果報告の件
2. 第72期（2021年4月1日～2022年3月31日）
計算書類内容報告の件

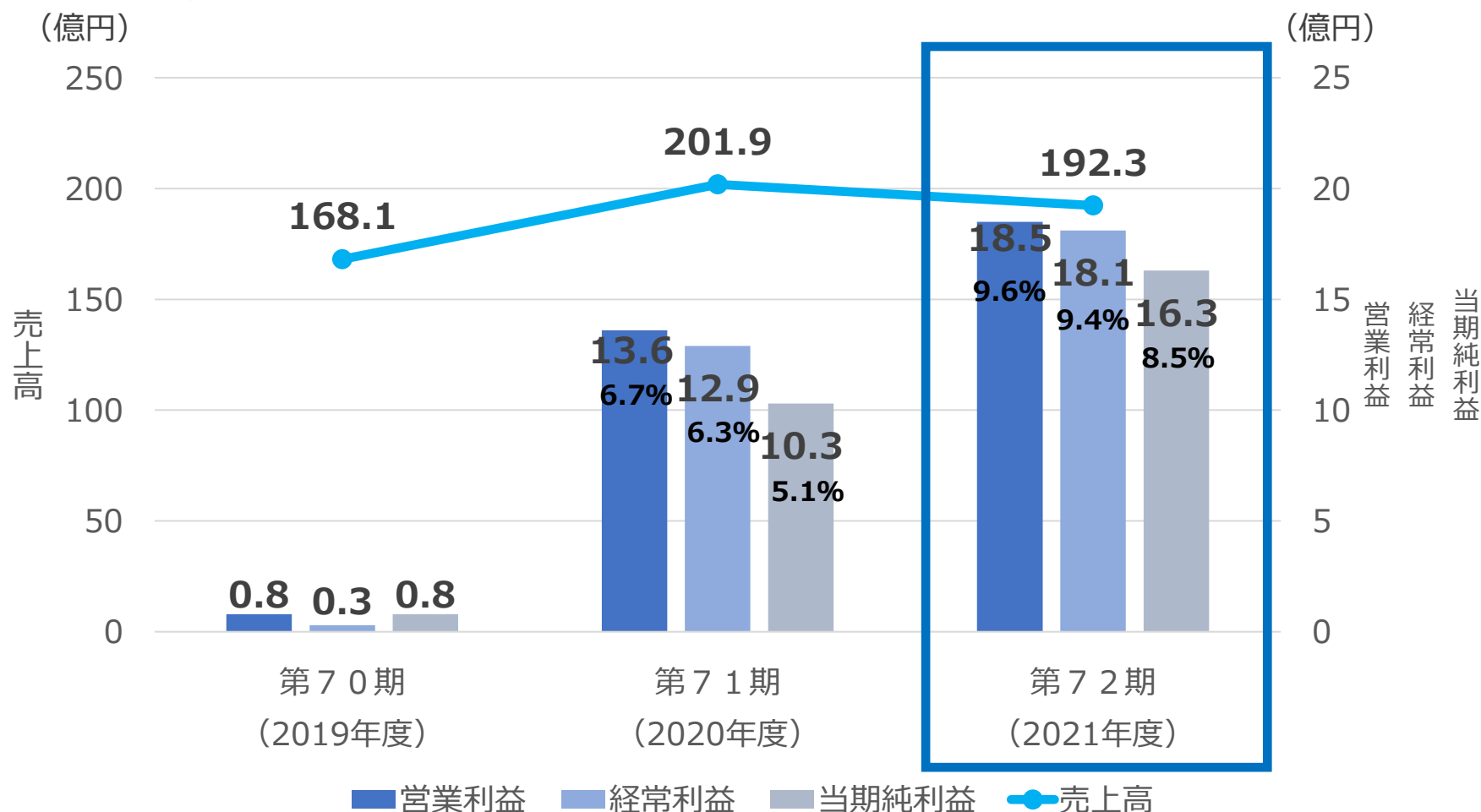
事業環境

- 新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴う緊急事態宣言等の影響があったものの、感染対策により経済社会活動が正常化に向かう中で、民間設備投資は持ち直し
- 5 G 関連の需要増などによる電子部品不足に対応した生産能力増強に伴い、設備関連の需要は堅調に推移

業績の状況

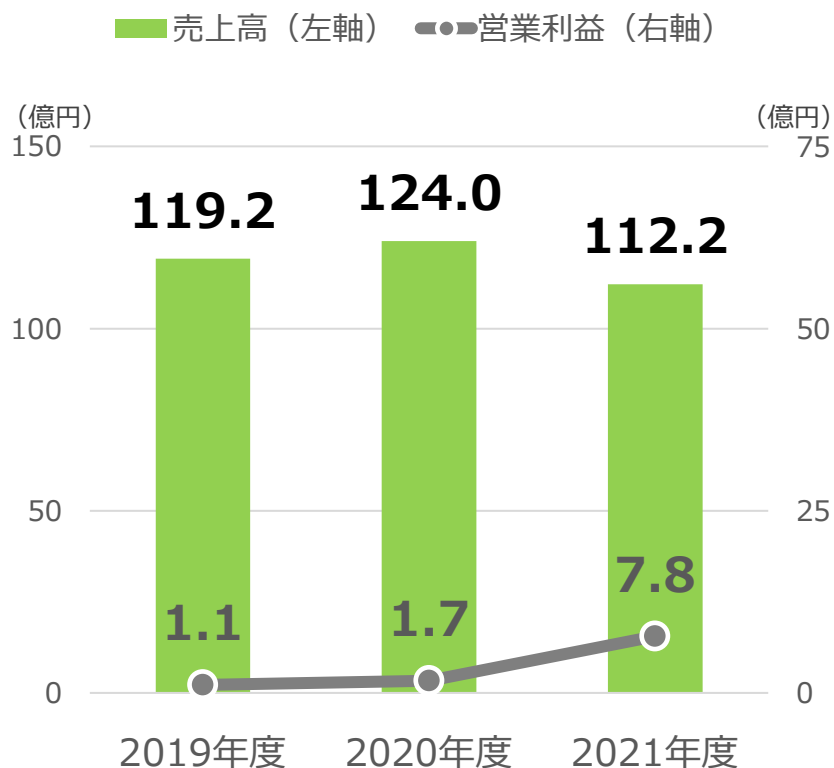
- 営業利益・経常利益・当期純利益とも 2 期連続大幅増益
- 営業利益率・経常利益率とともに経常利益は上場来最高

**営業利益率 9.6%、経常利益率 9.4%、当期純利益率 8.5%と
前年度から大幅な増加**



情報システム事業

プロセス改善活動の成果により利益大幅向上



売上高

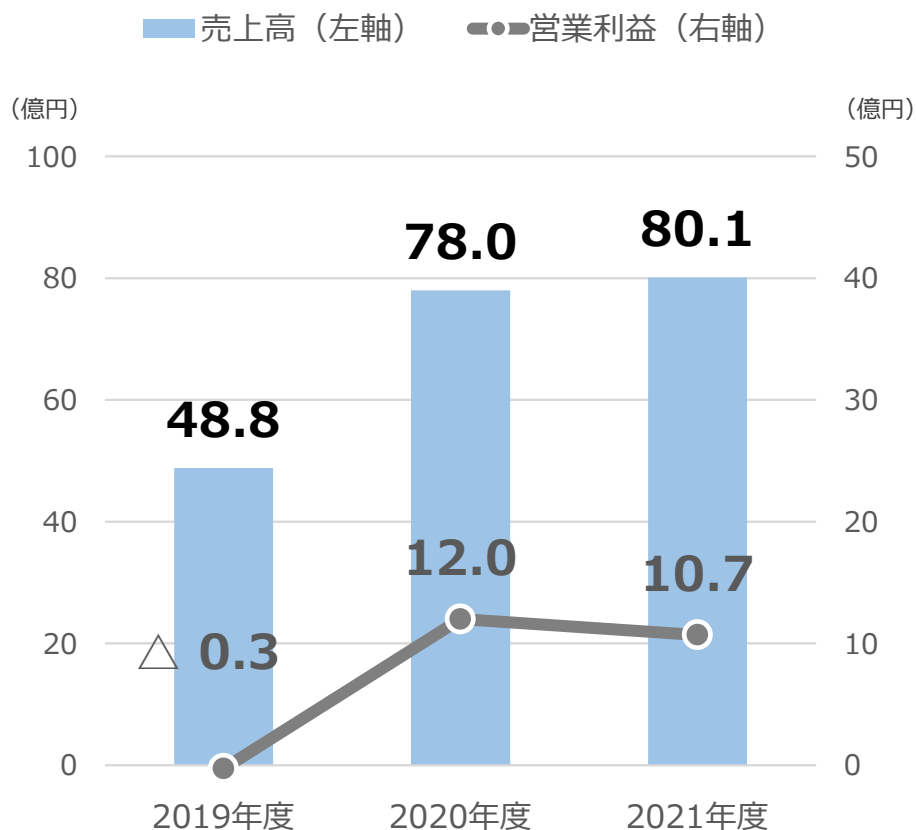
- 主要大型プロジェクトの端境期

損益

- プロセス改善活動により
収益力向上

電子機器事業

接合機器の5G関連需要増により増収



売上高

- 接合機器は、5G関連の生産設備需要増
- センシングソリューションは、発熱者スクリーニング需要一巡

損益

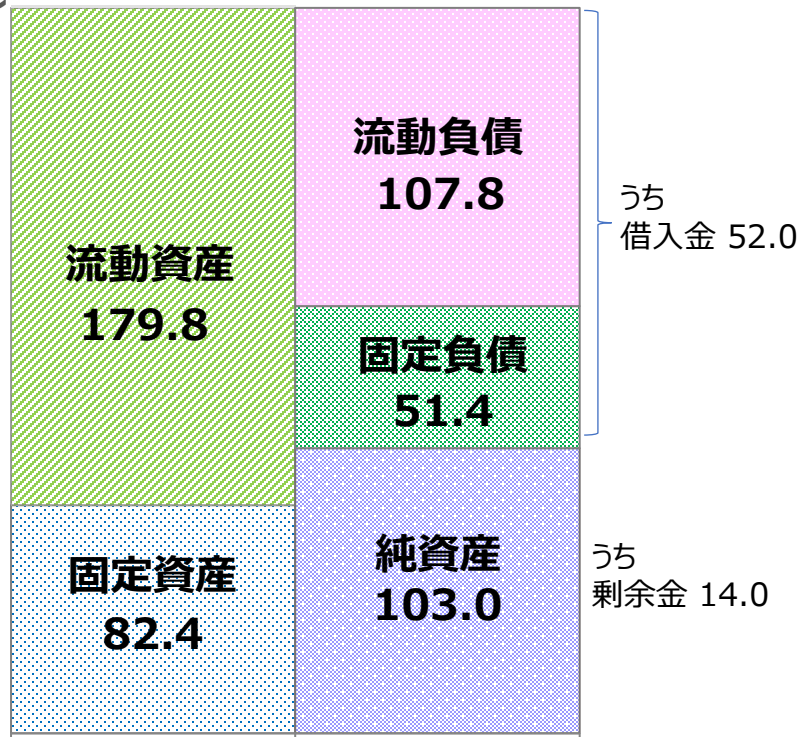
- 2年連続で10億円を超える利益を達成

連結貸借対照表の概要

借入金は総額38.7億円となり、前期比13億円圧縮
自己資本比率は39%から46%に向上

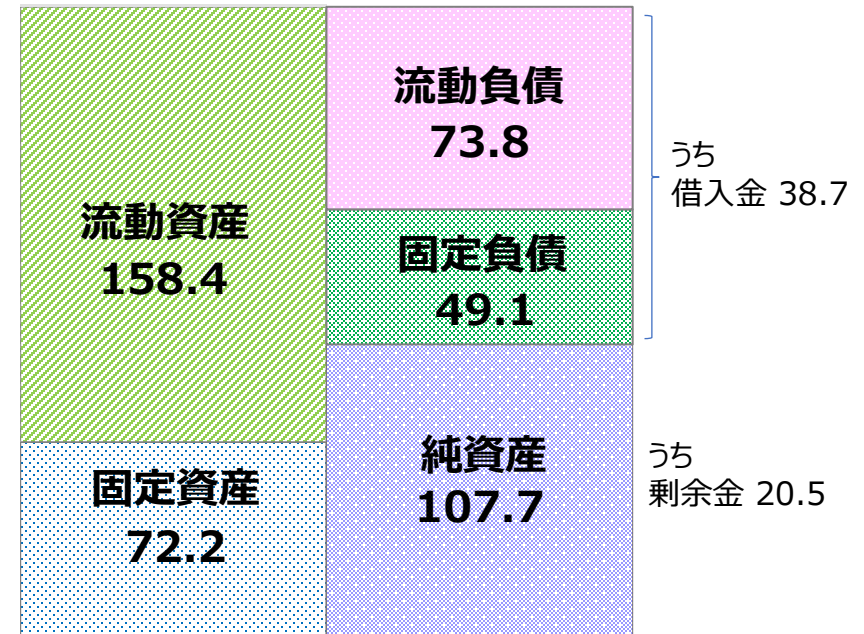
(単位: 億円)

2020年度 (2021年3月末)
総資産 262.2



(単位: 億円)

2021年度 (2022年3月末)
総資産 230.6





計算書類につきましては
お手元の招集ご通知27頁から29頁に
記載の通りであります

中長期的な成長に向けて人財基盤と事業基盤を強化

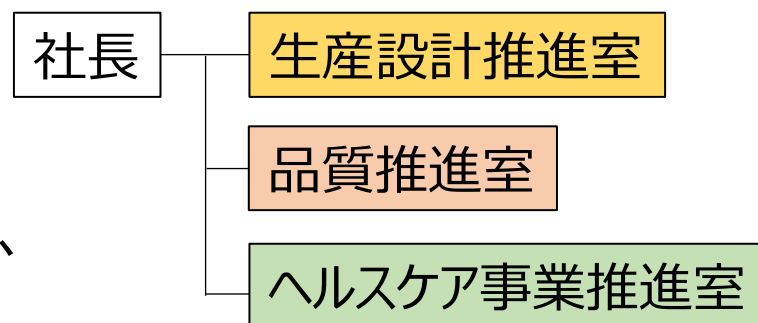
1. 人財育成・強化

成長戦略実現に向けてスキルマップに基づき育成/採用強化

2. 事業基盤強化

社長直下に3推進室を設置。
ものづくり力と品質の向上を推進して、
事業基盤を強化。

また、新事業創出（ヘルスケア領域）の推進力を向上



① ものづくり力強化

生産設計力(コスト設計力：
設計からのQCD作り込み)の強化と
継続的改善に向けたプロセスの構築

② 品質管理強化

3現主義監査による品質不適切行為
/重要品質問題の発生防止

中長期的な成長に向けて新事業創出に向けた施策を推進

③新事業創出に向けた施策

■ ヘルスケア事業推進室の新設（2021年1月）

- ◆ 新事業の推進を図り、社会への貢献と企業価値の向上を図る

予防

感染拡大防止の取り組み

トピック

「NHKニュース おはよう日本」で
当社の取り組みが紹介されました



■ 発熱者スクリーニングの運用ガイドを発行（2021年7月）

- ◆ 赤外線サーモグラフィの正しい利用促進と普及啓発を目的
- ◆ 大学・医療機関研究者とのガイド作成委員会に参画

医療

医療分野に向けた研究開発



発熱者スクリーニング運用ガイド(2021年7月発行)

■ 大学との共同研究の取り組み（2件）

- ◆ 顔面温度分布パターンのAI解析（2021年4月～） ＊特許出願中
- ◆ 赤外線サーモグラフィによる深部体温の推定（2021年11月～）



スクリーニング
サーモグラフィ

方針 更なる成長に向けた経営基盤強化と成長戦略推進

ありたい姿 「筋肉質で強くて良い会社」
“継続して営業利益率10%以上を出せる会社”

中計のシナリオ

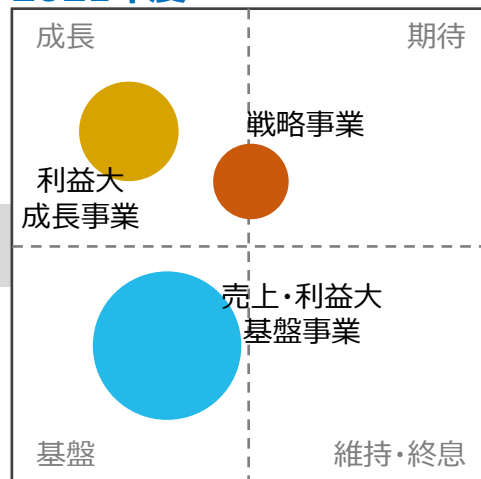


情報システム事業を基盤事業として、接合機器事業及びセンシングソリューション事業で会社成長を牽引 更なる成長のためにM & A など成長戦略推進

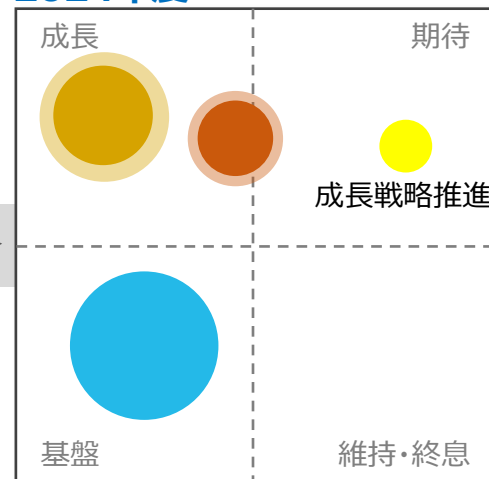
各事業の
位置づけ

● 情報システム事業	基盤事業	『全社を支える収益基盤』
● 接合機器事業	成長事業	『会社成長を牽引』
● センシングソリューション事業	戦略事業	『新市場へ展開』

2021年度



2024年度



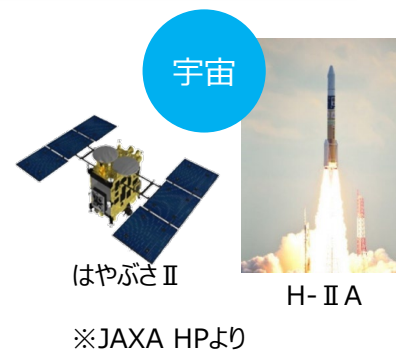
情報システム事業

日本の安全を守る事業を展開

安全・安心な社会の実現に貢献
陸上・海上・航空自衛隊へ防衛装備品を提供

顧客価値

製品の開発・製造・維持保守まで一貫体制でサービスを提供
JAXA認定の高信頼性・高密度実装技術を宇宙開発に提供



市場環境

- 防衛予算拡大、宇宙・サイバー・電磁波や先端技術への重点投資

事業戦略

- ものづくり力強化でQCDを磨き競争力向上
- 技術力と提案力で次期防衛装備品事業を獲得

次期防衛 装備品 事業

宇宙・サイバー・電磁波

スタンドオフ防衛

次期戦闘機 他

基盤 事業

・レーダー関連装置 ・誘導関連装置 ・指揮統制装置 他

・艦船搭載表示装置 他

・戦闘車両 ・射撃管制コンソール ・点検試験機材 他

接合機器事業

次世代のものづくりに “つける” ソリューションを展開

便利で豊かな社会に貢献

スマートフォンや自動車など高機能化する製品の「ものづくり」において、
最適な接合ソリューションを提供

顧客価値

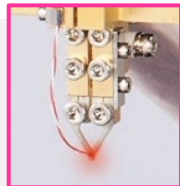
世界でも類を見ない接合4工法を有する強みを活かして
ワンストップで “つける” 最適なソリューションを提案

抵抗溶接



金属材の
直接接合で効率化

パルスヒート



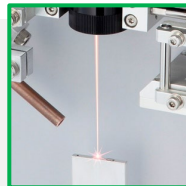
微細な温度制御で
はんだ付けを均質化

超音波



樹脂材の
直接接合で効率化

レーザー



非接触接合で
狭い箇所に対応

抵抗溶接

電気

パルスヒート

熱

レーザー

光

超音波

振動

金属溶接
はんだ付け
樹脂溶着
異種材接合
気密封止

市場環境

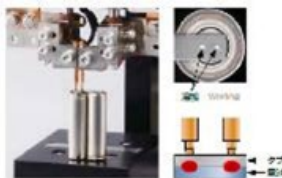
- 通信の大容量化/高速化、自動車の電動化/高機能化が加速
- 技術の進化や産業の変化に伴い、部品/材料/工法が変化

事業戦略

- メガトレンドの中で当社の強みが活かせる市場に、接合4工法を基軸とした差別化提案を積極展開して市場を開拓

ターゲットアプリケーションと市場規模

電池



車の効率化や安全性向上に向けた電池需要増

モーター



多様化するモビリティの増加で需要増
eアクスル等機能向上のための新技術増

ハーネス



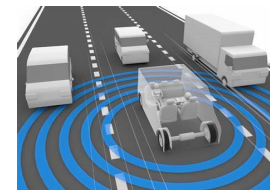
自動車のEV化が促進
軽量化素材（アルミ等）の需要増

光デバイス



次世代通信（5G/6G）やIoTの普及、ビッグデータの促進でデータサーバーや通信基地局の市場規模が拡大し
光通信や無線通信デバイスの需要増

無線給電

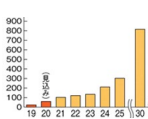


■ リチウムイオン電池
世界規模
(2017→2022)



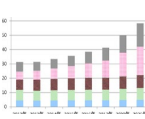
2倍

■ 電動自動車向け
eアクスル世界規模
(2020→2030)



12倍

■ ワイヤーハーネス
世界規模
(2015→2025)



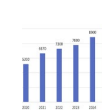
1.7倍

■ データセンターサーバー
世界規模
(2020→2030)



4倍

■ 通信基地局数
世界規模
(2020→2025)



2倍

※富士経済、富士キメラ総研、総合技研、シナジーリサーチの出典データを参照し当社が予測

センシングソリューション事業

赤外線サーモグラフィを軸として、産業保安、ヘルスケア、スマートファクトリーにソリューション展開

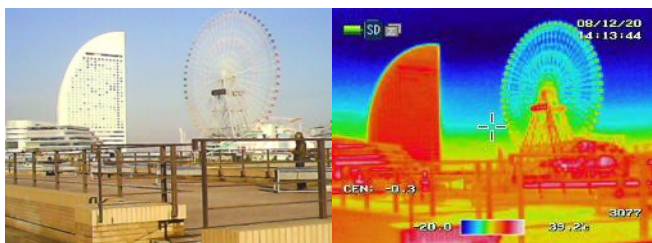
安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献

新型コロナウイルス感染対策であるスクリーニングや災害の未然防止など、世の中が安全で安心になるソリューションを提供

顧客価値

赤外線サーモグラフィカメラを自社で設計・開発・製造を行っている国内トップメーカーとしての品質及びサポート力と、豊富な製品ラインアップで最適なソリューションを提案

離れた場所から温度差を計測



市場環境

- インフラ老朽化対策推進（スマート保安、インフラDX）
- 健康課題への対応やものづくりの省人化・効率化のニーズが高まる

事業戦略

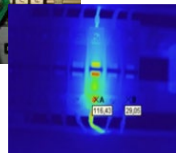
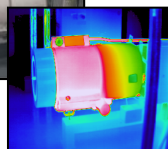
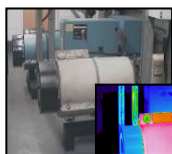
- ①産業保安 ②ヘルスケア③スマートファクトリー の
3つの市場にアプリケーションを積極展開

ターゲットアプリケーションと市場規模

産業保安

電動機の点検

制御盤の点検

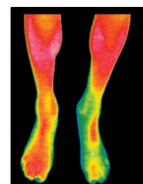


【スマート化】

- ◆ 巡視→遠隔監視
- ◆ 手動→電動操作(時刻、方角)

ヘルスケア

Avio既存技術の経験と知見
により医療に貢献



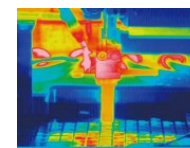
【画像検査】見える化

- ◆ 症状の確認
- ◆ 治療効果の観察



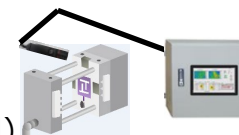
スマートファクトリー

製造ラインの監視と
フィードバックデータの活用



【品質の安定化】

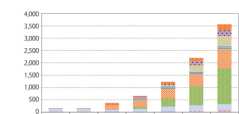
- ◆ 生産効率の追求
- ◆ 工場利益の最大化
(余剰能力最大活用)



産業保安 ドローンサービス 国内規模

(2020→2024)

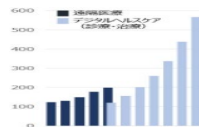
3倍



ヘルスケア デジタル医療 国内規模

(2020→2025)

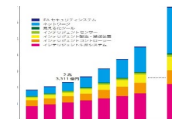
4倍



スマートファクトリー 世界規模

(2020→2025)

2.5倍



※経産省、国交省、厚生省、富士キメラ総研、矢野経済研究所、富士経済データを参照し当社が予測

ドローンの衝突回避実験



Point

- ① NEDO※の「ロボット・ドローンが活躍する省エネルギー社会の実現プロジェクト」の一環で他社と共同して、ドローンの衝突回避実験を実施
- ② 相対速度200km/hでのドローンの衝突回避に成功
- ③ 当社グループは、衝突回避システムの光波センサを担当

※国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

画像出典：2021年11月8日付(株)SUBARU、日本無線(株)、日本アビオニクス(株)、マゼランシステムズジャパン(株)および(株)ACSLの共同ニュースリリースから引用

タイ駐在員事務所開所

Point

- ① 2022年6月21日 タイ(バンコク)に開所
- ② ASEAN地域を中心に市場動向などの情報収集を強化
- ③ 日本と連携したサポート体制の向上



画像出典：STARTS International (THAILAND) Co., Ltd. HPから引用

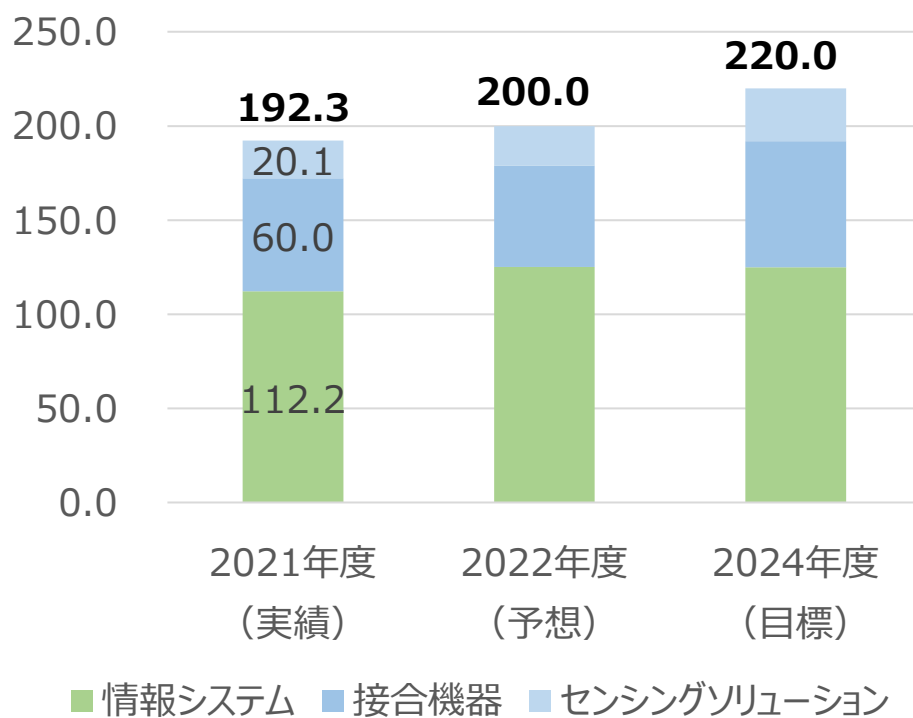
右肩上がりの増収増益を目指す

- 2022年度：営業利益 19.5億円、営業利益率 9.8%
- 2024年度：営業利益 26.0億円、営業利益率 11.8%

(億円)

	2021年度 実績	2022年度 予想	2024年度 目標
売上高	192.3	200.0	220.0
営業利益	18.5	19.5	26.0
営業利益率	9.6%	9.8%	11.8%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	16.3	17.0	18.0
EBITDA	21.0	22.1	30.0
ROE	15.4%	10%以上を計画	

(億円)



※今回の中期経営計画には、M&Aなどの目標数値は含まず

2022年度は、15期ぶりに復配（30円/株）を計画

配当方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要事項と認識しており、企業体質の強化を図りながら、当期の業績等を総合的に勘案して、安定的かつ適正な配当を継続していくことを方針としております。

2021年度の配当金につきましては、業績及び財務体質の強化などを総合的に勘案して、無配とさせていただきましたが、
2022年度は、15期ぶりに復配（1株当たり30円）とする計画を公表しました。

今後は、成長戦略に向けた投資で会社を成長させ、利益を最大化し、中長期的な企業価値向上に努めてまいります。

プロセス改革や意識改革により業績大幅改善

- 2期連続増益達成
- 営業利益率・経常利益率とともに経常利益は上場来最高

引き続き、企業体質の強化を進めて、
積極的な投資による成長戦略推進をはかり、
売上・利益拡大と企業価値向上を目指す



「安全で豊かな社会の実現に貢献」

以上をもちまして
報告事項のご説明を
終わらせていただきます

変更の理由

「会社法の一部を改正する法律」（令和元年法律第70号）附則第1条ただし書きに規定する改正規定が2022年9月1日に施行されますので、株主総会資料の電子提供制度導入に備えるため、次のとおり当社定款を変更するものであります。

変更の内容

招集ご通知36～37頁をご覧ください。

取締役候補者

再任 竹 内 正 人

再任 山 後 宏 幸

再任 呉 文 精 社外

再任 加 藤 精 彦 社外

再任 海 野 忍 社外

再任 稲 垣 伸 一

ご質問のある方は挙手をお願いします

議長がご指名申しあげましたら
会場中央のマイクの前で入場票の番号と
お名前をおっしゃってから
要点を簡潔にご発言願います

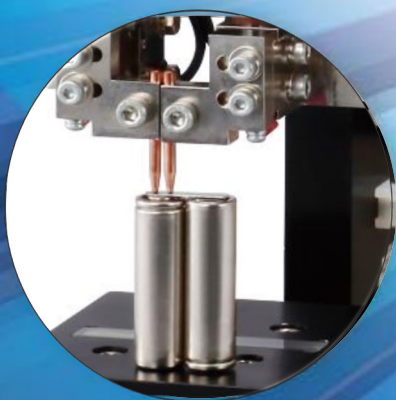
1 回につき 1 問でお願いします

ご質問が終了しましたら、お席にお戻りいただき
回答をお聞きください



日本アビオニクス株式会社

第72期定時株主総会 (閉会)



本日はご出席賜り
また議事進行に格別のご協力をいただき
誠にありがとうございました
出口側の株主様からご退場願います

将来予想に関する注意 および お問い合わせ先

本資料に記載されている業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。これらの判断及び前提は、その性質上、主観的かつ不確実です。また、かかる将来に関する記述はその通りに実現するという保証はなく、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

将来予想に関する記述は、あくまでも本資料の日付における予想です。新たなリスクや不確定要因は随時生じ得るものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、当社がこれら将来予想に関する記述を更新し、公表する義務を負うものではありません。



〒224-0053 横浜市都筑区池辺町4475番地

日本アビオニクス株式会社 経営企画部

e-mail:sitemaster@ml.avio.co.jp

TEL:045-287-0300